

研究テーマ	モモ・ブドウの肥大促進技術の確立とブランディングに関する研究		
担当者 (所属)	佐藤博紀 (デザイン)・萩原栄揮・里吉友貴・富田晃・宇土幸伸・塩谷諭史 (果試) 伊東洋晃・張華 (山梨学院大学)		
研究区分	総理研研究	研究期間	平成 28～30 年度

#### 【背景・目的】

- ・ モモ、ブドウの産地間競争は激しく、山梨ブランドの維持・強化を図るため、より魅力ある商材の開発が求められている。
- ・ 果実は出荷規格内では大玉ほど高値で取引されている。しかし、規格を超える果実は生産が安定せず、一定の販売ルートが確立していないため、大きいという有利性が活かされていない。
- ・ 本研究では、食味を維持しつつ現状の規格を超えるような大玉なモモ、大粒のブドウを安定して栽培できる技術を確認し、新たな規格の設定を目指す。また、流通において高価格取引を可能とするブランディング方法について検討し、差別化を意識した有利販売を目指す。
- ・ 差別化を進める中で、果実表面に模様を表示させる技術の確立と、新規格や新たな売り場への提案のためのパッケージデザインを進める。

#### 【得られた成果】

- ・ 果実表面への着色抑制の試験を行うことで、抑制のための模様のサイズや線の太さ、使用する資材などをルール化した。
- ・ ブドウのパッケージは昨年度の高級ギフト向けの一粒売りのパッケージデザインから市場調査の意見を取り入れ、複数粒へ対応できるようにパッケージを変更し、売り場を考え、より手の取りやすい形状と親しみのあるデザインを目指し提案をした (図1)。
- ・ モモのパッケージに関しては全農やまなしと連携し、3キロ箱を中心に新品種である「夢みずき」の大きさと甘さをアピールできるパッケージを製作した。ギフト向け商品という位置づけと県オリジナル品種であることを消費者に印象づけるためのロゴマーク・キャッチコピーを作製し、それらを目立たせるシンプルで高級感のあるデザインを目指した (図2)。



図1 ブドウパッケージイメージ



図2 モモパッケージイメージ

#### 【成果の応用範囲・留意点】

- ・ モモ3キロ箱に関しては全農と協力して製作を進めているため、今シーズンの出荷から本研究でのデザインが採用される予定。
- ・ ブドウの着色抑制シールに関しは安全性を考える必要がある。